

2004年4月13日
工業経済学特論ガイダンス

工業経済学特論の開講にあたって

川端 望
Tel&Fax 022-217-6279
E-mail kawabata@econ.tohoku.ac.jp
HP <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm>

教員紹介

1964年、仙台に生まれる

東北大学経済学部卒 東北大学大学院経済学研究科前期課程修了 同後期課程単位取得
退学 大阪市立大学経済研究所助手、講師、助教授 東北大学大学院経済学研究科助教
授

専攻：工業経済学、産業分析

担当科目：工業経済学演習() () ()、工業経済学特論、現代企業社会特別演習、社会
経済特別演習(大学院)

工業経済学演習、企業論(学部)

現在の研究テーマ

鉄鋼業における成熟とキャッチアップのダイナミズム

その他、研究内容については以下を参照

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm>

授業の趣旨

シラバス参照。

授業の進め方

テキスト

藤本隆宏『生産マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年。

その他

リーディング・アサインメントを大量に課す。授業までに課題文献を読んで来ること。
テキストは講義までにひととおり読んで、諸君が理解しているものとみなす。講義は、
テキストの内容を繰り返すのではなく、テキストの中から重要なトピックについて、課
題文献を用いながら掘り下げて議論する。

必要な学問的訓練

理論的には、ミクロ経済学、マルクス経済学、上記いずれかによる国際経済論、開発経
済学、産業組織論、競争戦略論、経営史、生産管理論などを勉強していると、わかりや
すいと予想される。

経営工学的な関心で受講すると期待はずれになる。

時事問題に関心があることは不可欠。

経済数学は使わない。テキスト内の数式もすべて理解する必要はない。計算の演習もほ
とんど行わない。

予定

4/13	ガイダンス
4/20	受講者確定。1章 はじめに
4/27	2章 開発と生産のプロセス分析
5/11	休講
5/18	休講
5/25	3章 製品と工程の歴史分析
6/1	3章(続き)。
6/8	4章 競争力とその構成要素 5章 コスト・生産性の管理と改善
6/15	5章(続き)
6/22	6章 納期と工程管理
6/29	7章 品質とその管理・改善
7/6	8章 フレキシビリティ
7/13	9章 生産戦略

オフィス・アワー

- ・当面は、授業後1時間とする。予約なしで研究室に質問、相談、議論に来てよい。
- ・それ以外の時間に研究室に来るときは、予約すること。直前の確認でもよいが、前日までに連絡することが望ましい。
- ・電子メールでの質問も受け付ける。

成績評価について

- ・100点満点で60点以上を合格とする。期末レポート、授業での報告・討論を総合して判断する。
- ・5月末までに申し出た場合に限り、履修放棄を認める。
- ・毎回出席をとり、出欠は減点法で評価する。無断欠席および合理的と認められない理由での欠席はマイナス10点、無断遅刻(20分以上)がマイナス5点、報告担当時の無断欠席はマイナス25点とする。マイナス40点になった者は自動的に失格とし、出席を認めない。
- ・事前に連絡があった欠席は、合理的な理由である限り成績に影響しない。合理性の判断基準は、おおむね以下の通り。記していないケースについては相談に応じる。
認める：研究のためのフィールドワーク、学会出席、研究上必要な研究会への出席、病気、事故、親しいものの冠婚葬祭、学友会サークルの対外試合、在留手続き、院生会役員の場合は研究室委員会見。就職活動。
認めない：アルバイト、上記以外のサークル活動。
- ・特別授業などを土・日・祝日に行う場合は、より緩やかな基準で欠席を認める。

留意事項

- ・報告は、すべてレジユメか文章にまとめること。
- ・レジユメ、レポートを含めて、すべての書類はA4またはA3版とする。
- ・レジユメは人数分コピーして来ること。
- ・レジユメは原則として日本語で書くこと。
- ・レポートは日本語か英語で書くこと。
- ・市販されている書籍を全頁コピーしてはならない。

- ・欠席する場合は、遅くとも 20 分前までに連絡すること。一方的な説明でも説得力があると思ったら、FAX、電子メールによる通知でよい。相談を要する場合は電話にすること。
- ・携帯電話、PHS などの音をさせないこと。
- ・居眠りは、とがめないが起こす。
- ・授業中でも飲み物は飲んでよい。

以上の事項は、この授業に限ってのことであり、他の授業には適用されない。

以上